

バリアフリー部会の取組と今後の方向性 レガシー③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～

1 令和6年度の主な取組

1 市有施設のバリアフリーの取組

①バリアフリー調査について

- ・不特定多数の利用がある市有建築物で、平成21年以前に整備されたものを対象に、令和3年基準の「川崎市福祉のまちづくり条例」への適合状況を調査。
- ・令和2～5年度に167施設の調査を実施し、令和6年度は46施設の調査を実施。

②バリアフリー調査結果を踏まえた対応

- ・調査の結果、不適合箇所については、A対応（軽易工事等で即時対応を行うもの）、B対応（大規模修繕等で対応するもの）、C対応（構造的に対応が困難、又は、多大な費用を要するため建替まで現状維持とするもの）の3つに分類。施設管理者等と調査結果を共有し、適宜、不適合箇所の改善に向けた取組を進める。

＜主な不適合箇所＞

A対応（誘導ブロック・標識等）、B対応（開口部直し(パーテーション)等）、C対応（開口部直し・傾斜路勾配等）

- ・当面ハードの改善ができないものについては、「合理的配慮の提供のサポートブック」等を踏まえソフトにて対応。

2 バリアフリー基本構想の改定

モデル的地区として改定した新川崎・鹿島田駅周辺地区バリアフリー基本構想の改定結果検証等を踏まえた課題に基づき、今後のソフト・ハードのバリアフリー化の一体的な推進に向け、令和6年度から7年度にかけて、現在の基本構想8地区・推進構想11地区について調査・分析等を実施。

令和6年度は、改正法や地区の変化等を踏まえ、「全体基本構想への統合」や「移動等円滑化基本方針策定」等の必要性の検討を令和7年度以降に行うための、現行構想に関する基礎調査を実施。

3 福祉のまちづくり条例及び施行規則の改正 **NEW**

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）施行令の一部改正（令和6年6月公布、令和7年6月施行）により、車椅子使用者便所の設置数等に関する基準が強化され、関係条例である川崎市福祉のまちづくり条例及び同施行規則の基準を上回る箇所が生じた。

このため、政令の一部改正の施行のタイミングに合わせ、車椅子使用者便所の設置数等に関する条例及び施行規則の基準を、政令の基準に合わせるために強化する改正を行う予定（令和7年第1回定例会上程）。

バリアフリー部会の取組と今後の方向性 レガシー③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～

1 令和6年度の主な取組

4 バリアフリー重点整備地区交通安全施設整備事業の推進

対象地区：川崎駅周辺地区、武蔵小杉駅周辺地区、溝口駅周辺地区、
宮前平・鷺沼駅周辺地区、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区、
京急大師線沿線地区

＜富士見公園前＞点字ブロック新設



施工前



施工後

＜市立多摩病院前＞点字ブロック新設



施工前



施工後

5 公園整備事業の推進

①富士見公園再編整備事業の推進 **NEW**

インクルーシブ遊具の選定にあたり、福祉関係団体やインクルーシブな遊び場づくりの活動団体等と意見交換の結果をもとに、整備を行った。



団体等の意見をもとに整備した
保護者見守り用のパーゴラとベンチ



大人と子どもが一緒に遊べるブランコ

バリアフリー部会の取組と今後の方向性 レガシー③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～

1 令和6年度の主な取組

5 公園整備事業の推進

②夢見ヶ崎動物公園の再整備の推進 **NEW**

パークセンターの建築にあたり、多機能トイレやベビールームの整備を行った。
また、東側広場のトイレにおいても多機能トイレの整備を行った。



パークセンター内ベビールーム



パークセンター内多機能トイレ

③稲田公園の再整備に向けた取組

稲田公園の再整備に向けて、引き続き、園路及びトイレ等バリアフリーを含めた公園のあり方について検討を行った。

6 福祉課題に対応する製品等の創出

- ①福祉施設の居住空間を想定した「模擬環境ラボ」を備えた「Kawasaki Welfare Technology Lab（ウェルテック）」において、東京科学大学・産業技術研究所と連携し、民間企業が開発する福祉製品等の性能・安全性を評価するとともに、同じ川崎市複合福祉センター（ふくふく）の上層階に入居する民間福祉施設等での実環境においても評価実証を行い、福祉製品等の開発・改良を支援。
- ②総合リハビリテーション推進センターと連携し、リハビリテーション専門職等福祉専門職の持つ現場での課題や福祉機器へのニーズ等を直接企業と共有する勉強会を開催。



企業と福祉専門職との勉強会の様子

- ③川崎市内外企業の福祉産業への参入を促進するため、意欲のある企業や新たな福祉製品・サービス等を掘り起こし、市内企業を含むウェルフェアテクノロジーフォーラム参画企業等との出会いの場を創出。
- ④かわさき基準認証福祉製品等の活用促進に向けた取組を実施。

バリアフリー部会の取組と今後の方向性 レガシー③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～

1 令和6年度の主な取組

7 ハードとソフトの連携推進

①バリアフリーマップの情報更新

障害者や乳幼児連れでの外出をサポートするため、市HPにおいてバリアフリーマップ/かわさきパラムーブメント実践店マップを併せて提供している。令和6年度はバリアフリー推進構想策定地区である、京急大師線沿線地区、JR南武支線沿線地区、平間・向河原・武蔵小杉新駅周辺地区における目的施設の施設情報と経路情報の更新追加とともに、市内の高齢者や障害者を含む不特定多数の利用が想定される施設情報の更新追加を行った。



バリアフリーマップ

②公共的建築物等のバリアフリー整備に関する市職員向け研修会の開催

障害当事者から経験に基づく事例等を学ぶ「パラアスリートから学ぶ共感力・ダイバーシティ研修」に合わせて、施設のバリアフリーに関する基準や設備の事例等について実施。

実施時期：令和7年1月22日（水）

2月5日（水）

参加人数：85名



共感力・ダイバーシティ研修の様子

2 令和7年度の取組の方向性

レガシーの現状

現状①：ハードのバリアがあると感じている人の割合

26.8%（令和5年度28.1%）

令和5年度調査に比べ、1.3ポイント減少し良くなっている。

現状②：社会的マイノリティにとって、ハードのバリアがあると感じている人の割合

32.9%（令和5年度31.5%）

ハードのバリアフリーに関する現状は、令和5年度に比べ数値的にはよくなってきている。
引き続き数値の推移を確認するとともに、効果的な取組を検討・推進する。

3 市民等の意見聴取

川崎市とともにウェルテックを共同運営している、東京科学大学・産業技術研究所の研究者等の科学的知見による専門的助言を頂く予定。